

海と社を結ぶ大庇【おおびさし】

長い歴史と豊かな自然に満ちた隠岐の島。それらを象徴する出雲大社分院と隠岐の海に敬意を払いつつ、懐深く人びとを向かい入れる、大きな庇をもつ交流施設を提案します。



【海側から出雲大社分院を見る】
建物が活動出した大きな庇のもと、分院通りと一体化した広場のような空間が創出されます。建物のデザインが尊重した、開放的で受け持てる良い居場所となります。

海の見える交流施設を設計にあつた基本姿勢

まちとともに歴史を刻みつつける公共空間

隠岐の島町の玄関口であるこの場所は、地域の歴史から島の未来まで、大きな時間のつながりを感じさせる魅力と可能性に満ちています。そこで、人びとのいきいきとした活動をまちの歴史に刻み続けることができるような、シンプルで広々とした空間を実現します。

島の風土を体現する交流施設

吹き抜ける潮風や港に沈む夕日、元旦の大神通りに並ぶ緑日など、地域の風土をダイレクトに体験でき、また風土そのものに溶け込んでいく、**おらかな施設**を計画します。「この場に在るだけで隠岐そのものを感じられる…」**地域の景観に溶け込む**作ります。



歴史的な時間の中で残り続ける堅固な空間

うわべだけの装飾的な木の使い方を避け、経年変化にもびくともしない、**堅固な木造建築**を目指します。木造らしいおらかなで規則性のある平面は、使い方の変化にも柔軟に対応可能で残り続ける、**地域の骨格のような空間**となります。



自由に豊かな島のくらしのために

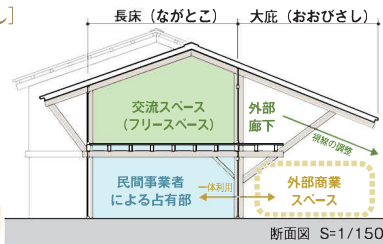
すべての利用者が自分らしく活動できる、**開放的でおらかな空間**を目指します。地域住民が何か活動をする際に、まずこの施設を思い浮かべるような、誰もが利用可能な「**自由**」を体現し、象徴する施設とします。



テーマ①景観（風景）

地域の景観に敬意を表す大庇【おおびさし】

- 「大社分院通り」に向けて、**大きな庇（おおびさし）**を張り出します。柱の落ちない開放的な「外部商業スペース」を設けつつ、1階の「民間事業者による占有部」との**一体的な利用**を促します。
- また、軒先が深く下がることで、2階から分院への**見下ろすような視線**を巡りつつ、「大社分院通り」への**視線の抜け**を確保します。
- 2階は片廊下型にすることで、交流スペースを**フレキシブルに使う**ことができます。



地域に活力を与えるまちの長床【ながとこ】

長床は、かつて神と人を結ぶ建築として神社の近くに建てられました。行事がなくとも人びとはここに集い、大人はお茶を飲みながらおしゃべりに花を咲かせ、時にはゴロンと昼寝さえしたと言われます。広々とした空間を、子どもたちは無邪気に遊び回ったそうです。こうした長床のような**自由で開かれた場**を、現代における交流施設として提案します。開放的な内部空間が、「大社分院通り」へと広がり、**地域全体に活力を生み出す場**となります。



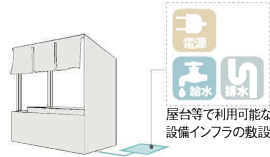
【既存する長床】
人びとを受け入れる開放的でおらかな場



【2F 外廊下から港方向を見る】
ウチノソトをつなぐパフォーマンス（遊歩空間）。階下の分院通りの賑わいやさむかひがほどよく伝わってきます。

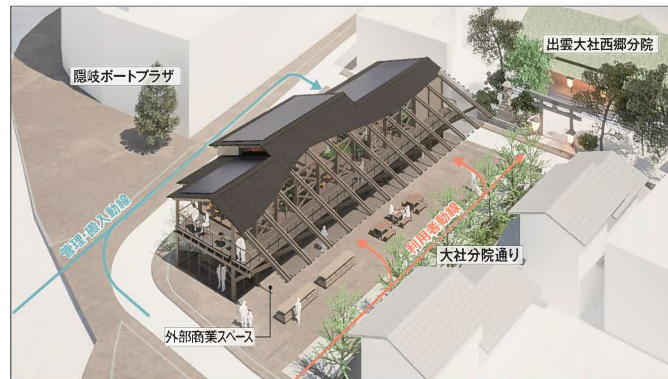
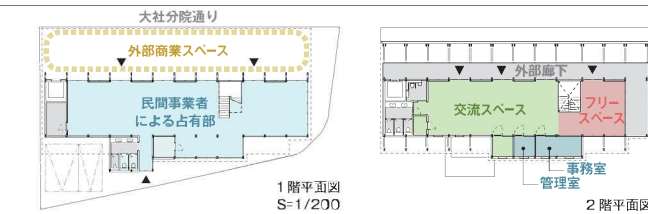
明快で分かりやすい平面・動線計画

海とまちをつなぐ明快な空間構成としながら、ストリートファニチャーや屋台利用を想定した**インフラなどの外構を建築と一体的に計画**することで、まち全体での賑わいを生み出すことをこころがけます。



安心して利用できる施設計画

- 大社分院通りからの利用者動線と、隠岐ポートプラザ側からの管理・搬入動線を**明快に分け、歩車分離**を行います。
- 明快な動線計画及びバリアフリー計画とすることで、**誰もが利用しやすく緊急時にも避難が容易なプラン**にします。
- 施設中央に事務スペースを配置し、誰もが安心して利用できる、**死角のない施設計画**をこころがけます。



地域住民が気軽に集まれる参道の様な「大社分院通り」

大庇（おおびさし）の下は、**大社分院通りと一体化**して、まちに開かれた広場となります。普段は所々に腰掛ける場やテーブルが置かれたノンビリくつろげる場として、イベント時には屋台が建ち並ぶ活気に満ちた場として、さまざまな表情を見せます。

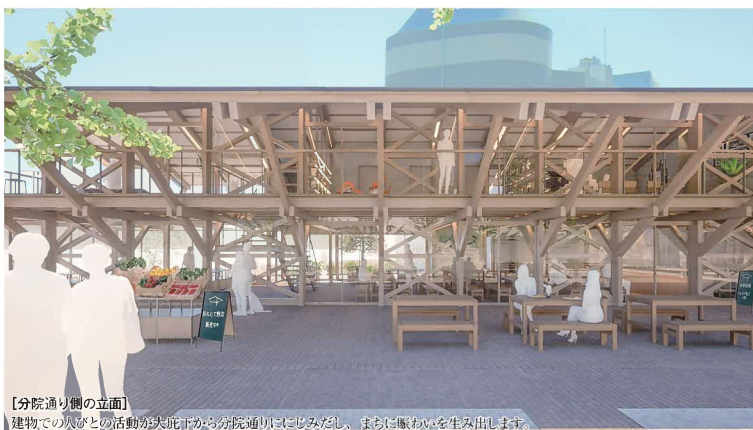


海と社（大社分院）を結ぶおらかな建ち方

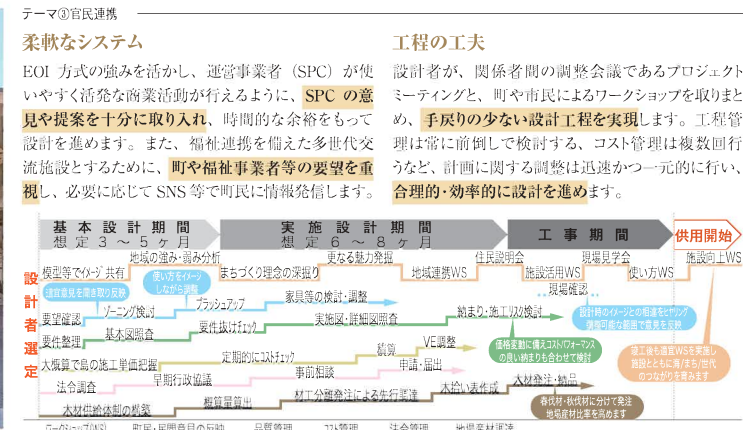
1Fでは、大きな庇とガラス戸の多い開放的な壁によって、分院通りと一体化した広場的な空間が広がります。2Fの海側にはバルコニーを、分院通り側には外部テラス（廊下）を一体的に設けます。海と大社分院という隠岐の島にとって大切な存在を、どこに居ても感じられるようにします。



【1F：民間事業者占有部から分院通りを見る】間仕切りのない開放的な内部（長床）から、外部商業スペースへ移動し、さまざまな世帯の団体が交流します。



【分院通り側の立面】建物での人の活動が大庇下から分院通りにも広がり、まさに賑わいを生み出します。



シンプルで柔軟な建築計画

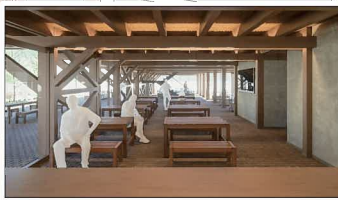
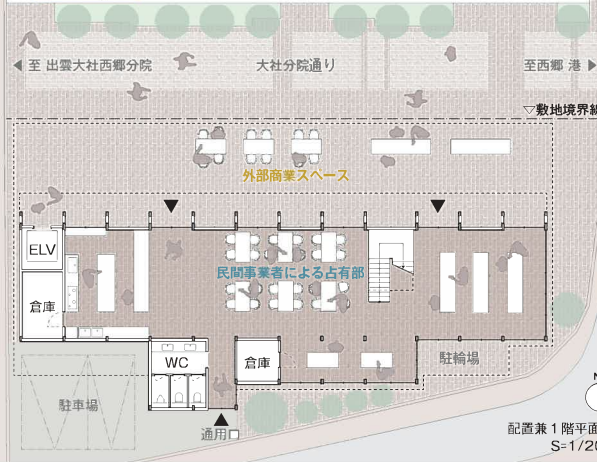
- 構造物を合理的に配置することで、柱や壁の少ない、使いやすい用途の**変更に柔軟に対応できる平面**になります。
2Fは分院通り側に外部廊下を設けることで、用途の異なる部屋間も**移動しやすくなります**。
- 今後の管理・運営方針の変化に備え、長く広々とした内部空間を**可動間仕切り（スライディングウォール）**等で仕切り、**間取りをフレキシブルに変えられる**ようにします。
- 1,2階を明快に分割可能な計画とすることで、**異なる管理形態や営業時間にも柔軟に対応できる計画**とします。



【管理動線側の外観】街並みの表情を損なわないように配慮します。

大きな庇の下に広がるインクルーシブルな半外部空間

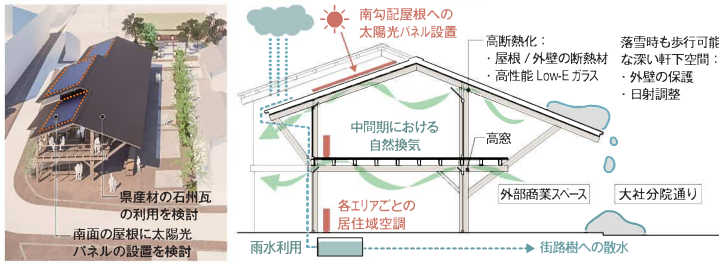
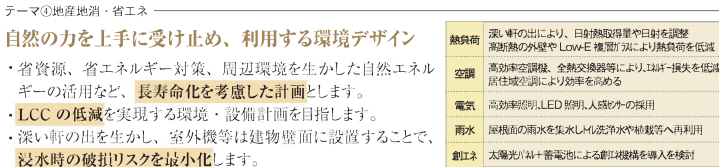
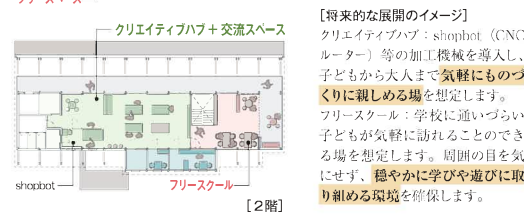
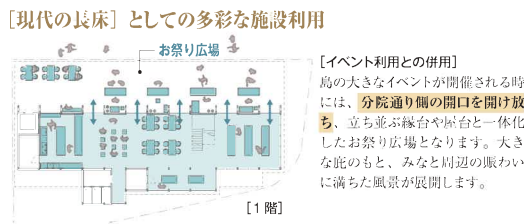
- 大庇の下には、分院通りと一体化した、文字通り**込み込むような空間**が広がります。様々な世代や立場の利用者が交流する、インクルーシブルな空間を創出します。
- 大きな軒下のもと広がる空間は、大社分院の門前町（鳥居前町：とりいまえまち）として、日常的な穏やかな、イベント時には**活動的な場**として、**誰もが利用しやすいまちの居場所**となります。



【1F：民間事業者による占有部】可動間仕切り等により、使い方の変化に対応できます。

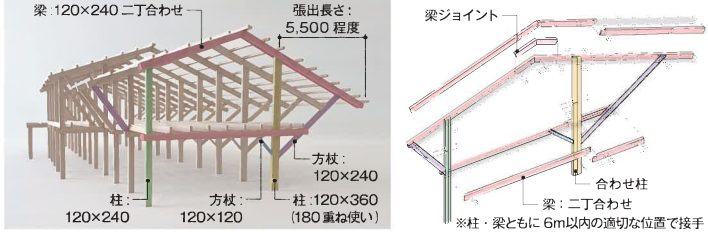


【2F：交流スペース】地域の集会場や子どもの遊び場など、多様な使い方を受けます。



流通材を用いた在来工法の技術でつくる〈岐阜の大庇〉

- 岐阜の鳥産の中小径材を用いた木造在来工法により、最大張り出し長さ5.5mの開放的な片持ち屋根（大庇）を実現します。
- 建物全体で「やじろべえ」のように均衡を保つことで、**大きな片持ち屋根を安定して保持**します。
- 材長6m以内の製材を使用し、**地元で施工可能な構造計画**とします。材長の長い部材については、流通材を組み合わせた〈重ね梁〉や〈合わせ柱〉を用いることを検討します。
- 深い軒の出により、木造躯体及び外壁を強い日差しや雨風から十分に保護します。



事業費・技術面・利用

地域のシンボルにふさわしいメリハリのある予算配分

- 木材を積極的に使いつつ、部材の種類を限定し既成金物によるシンプルなる在来工法とすることで**コストダウン**を図るとともに、**施工管理の煩雑さを抑え**ます。十分な**耐久性**をもつと同時に、**地域工務店の技術で十分に施工**できる設計とします。
- 高効率・汎用型機器を導入し、**イニシャル・ランニングコストの削減**を図ります。竣工後の**メンテナンスが容易**で、**経済的に優れた設備計画**とします。

意匠・全般	使用建材やメーカーの統一により工費低減を図る。 反省性のある柱割を活かした建具・制内等の規格の統一を深め施工管理の煩雑さを抑えさせる。
構造	地元産中小径材及び既成金物を使用した木造在来工法とすることで、地域の材料や技術を活かすことによる利便性を高める。 設計時から地産の製材・製材関係者にヒアリングし、制約の明確化を図る。 沿岸部での浮桧材などでの構造体及び外壁の保護のため、深い軒先及び保護塗装等を行う。
設備	自然エネルギーを最大限活用した省エネ化、及び太陽光発電による創知による高い高断熱化を図りランニングコストを低減。 イニシャルコストを抑え将来的な設備改修を容易にするため、汎用型機器を積極的に採用する。



【港側の外観】力強い木造架構と馴染み深い切妻屋根により、地域のシンボルとしての建築になります。